



## 苦手の克服

■私は今のところ理系志望なので、数学ができた方がよい。とは言うものの、数学は文系でもできるにこしたことはない。英語もできた方がよいだろう。2年次では、主にこの2教科を中心に学習を進めていきたい。

■一時期は海洋系に進みたいと思っていたが、少し自分の思っていたのと違って、やりたいことがまだ決まらない状態に戻ってしまった。ただ、大学進学をしたいから、これから気持ちを切り替えて勉強したい。

■私の現在の進路志望は、国公立理系の道である。今現在の最大の壁は、何とんでも英語だと思う。日比谷での一年間の英語（コミュ英&英表）の授業を通して、英語に対する苦手意識は少しずつなくなってきたということは感じている。事実、副読本がきっかけで洋書を読むことが楽しくなった。しかし、それがなかなかテストの点数に結びつかないので、来年も引き続き努力していく。

■医学部を目標としているので、このままではなく、まず国数英を定着させ、また教養を身につけて将来につなげたい。

■現在の段階では、将来は国家公務員として働くことを夢としているので、大学も法学部や政治に関する分野を学ぶ学部へ進学したいと考えている。そのためには、英語と数学の苦手を克服することが必要なので、春休みを使って復習し、2年次の学習につなげていく。

■今以上に予習・復習をしようと思う。そして、自分から問題をみつけて、解決しようと思う。

\*

こうやって書いたもらったモノを読んでみると、講演のポイントは、各自それぞれの課

題と結びつけながら、キチンと受け止められたのではないかと思う。あとは、それを実行できるかどうかである。

卒業式の時に、「やるべきことはやった」と納得して卒業できるようにしたいものだ。

その「やるべきこと」には、勉強も部活も行事もあるだろう。その中で、勉強と部活は大学に行っても（もちろん高校のモノとは異なるだろうが）できるが、行事は、残された6回だけかも知れない。大学によっては体育祭そのものがないし、あっても一般の学生が参加することは少ないようだ。また、舞台上で合唱する（演技する）などということは、もはや一生涯ないという人がほとんどのはずだ。だから、ぜひ行事も、2～3年生の生活の中にしっかり位置づけてほしい。

しかし、何とんでも大切なのは勉強である。卒業式の直前には入試があるし、進学指導重点校の卒業生としては、やはりその結果が、卒業を迎える際の気持ちに大きな影響を与えるのは確かだからである。

進路の方向性がまだ決まっていない人もたくさんいるようだ。しかし、今年の秋までにはある程度の目安をつけなければならない。そのためには、行動することが大切だ。オープンキャンパスやネットを使った資料集めなどに、積極的にチャレンジしよう。

そして、一番大切なのが、日常の予習・復習。家庭学習の体制がまだ確立していない人もいるようだ。1日1時間ずつ差がつくと、年間で365時間。残りの2年で約700時間。その重みを認識し、集中して学習する時間を確保するように努力しよう。